創立 1951.1.1　承認 1951.3.23　登録番号 7734

ロータリーを実践し　みんなに豊かな人生を

DIST.NO.2530
ROTARY CLUB OF FUKUSHIMA
WEEKLY REPORT
2013-14 年度 福島ロータリークラブ会報 vol.42

■例会日／2014年5月8日（木）　■開会点鐘／12:30
■会　場／ホテル［辰巳屋］8F

福島ロータリークラブホームページ
http://www.f-rotary.com/

【事務所】福島市栄町5の1 ホテル辰巳屋 7F 【例会日】木曜日12:30 【例会場】ホテル辰巳屋 8F
【TEL】024-524-1010 【FAX】024-524-1011 【mail】f-rotary@guitar.ocn.ne.jp

第42回 会長挨拶

2013-14年度 会長
紺野　晴郎

後半のゴールデンウィークも庭木の手入れを行いました。趣味の皐月はまだ蕾ですが、ツツジはきれいに咲いております。

花と言えば今週の日曜日は「母の日」です。母の日には国によってたくさんの説や起源がありますが、イギリスやアイルランドでは、17世紀に奉公に出された子どもたちが年に一度だけ教会で母親に面会できる日を復活祭前の祝日としていたのが起源と言われています。

アメリカでは南北戦争のさなか、敵味方を問わずに負傷兵の衛生改善に尽力したアン・ジャービスという女性の死後、娘のアンナが亡き母の命日（1907年5月12日）に教会で記念会を開催し、参列者に母の愛した白いカーネーションを配ったのが、「母の日にカーネーションを贈る」という習慣のはじまりと言われております。

日本では、1931年（昭和6年）に、大日本連合婦人会を結成したのを機に、皇后陛下（香淳皇后）の誕生日である3月6日（地久節）を「母の日」としましたが、1937年（昭和12年）5月8日に、第1回「森永製菓母の日大会」が豊島園で開催されました。その後、1949年（昭和24年）ごろからアメリカに倣って5月の第2日曜日に行われるようになったのが、現在日本で広まっている母の日の始まりです。母の日の起源は世界中でさまざまなバリエーションがあり、日付の方も2月～5月を中心に国によってバラバラです。

母の日にはカーネーションなどを贈るのが一般的ですが、カーネーションには「十字架に架けられるキリストを見送った聖母マリアがこぼした涙が落ちた地面に咲いた」という伝説があり、古くから母性愛の象徴とされていたことも「母の日にカーネーションを贈る」習慣につながっているとも言われています。その後、カーネーションの色の意味合いが「存命する母がいれば赤、亡くなっていれば白」とされるようになりました。

もし、第二次世界大戦で敗戦国とならずに、森永製菓が母の日にはキャラメルを贈ろうと言っていたならカーネーションではなくキャラメルになっていたかもしれませんね。

例 会 次 第

会員スピーチ「短観について」

日本銀行 福島支店長　**中島 健至** 会員

開会点鐘　紺野晴郎 会長
ロータリー・ソング「我等の生業」
ソングリーダー　渡邊又夫 会員
お客様並びに来訪ロータリアン紹介
会長挨拶　紺野晴郎 会長

— 食　事 —

幹事報告　日比野恒夫 幹事
各委員会報告
●**広報マルチメディア・雑紙小委員会**　佐藤武彦 委員
●**プログラム・ニコニコBOX小委員会**
プログラム担当　古俣　猛 委員
ニコニコBOX担当　茂田士郎 委員
◎本日のプログラム
閉会点鐘　紺野晴郎 会長

例会プログラムのご案内

■**5月29日（木）**
「地区研修・協議会」報告
※ 次期役員・理事の参加者の皆様に報告して頂きます。
進行は、次期会長・幹事にお願い致します

お客様並びに来訪ロータリアン

●**福島中央RCより**
芳賀　裕 様

幹 事 報 告　日比野恒夫 幹事

例会変更のお知らせ
●次週、15日は理事会承認休会となりますのでお知らせ致します。
その他のお知らせ
●5月理事会議事録を配布しておりますのでご確認ください。

会員スピーチ
「短観」について

日本銀行福島支店長
中島　健至 会員

本日は、3月第4週に引き続きまして、何故か短期間のうちに再度皆様の前でお話をさせて頂くこととなり、大変光栄に存じますと同時に、それこそ「公平かどうか」のテストに抵触しそうでもあり、かなり恐縮もしております。事の経緯としましては、前回3月にお話をさせて頂く前に、紺野会長、日比野幹事から、短観の話を、経済の話を、という度重なるご要請を受けておりましたにも拘らず、私が、全く関係のない新島襄の話をすることにしてしまったものですから、その償い・お詫びということでもないのですが、短観の話はまた別途の機会にということで、何とかご了承を頂いた、ということであります。その機会が、こんなに早く訪れるとは正直思ってはおりませんでしたが、皆様に日銀福島支店の業務の一端をご紹介できる折角のチャンスでございますので、ちょっと硬い話になるかもしれませんが、何卒お許しを頂いて、おなかが満たされた後に耐え得る範囲で、お付き合いを頂ければ幸いでございます。

「短観とは何か」

さて、まず、短観とは何か、でございますが、正しくは、「全国企業短期経済観測調査」という名称です。まさに名前のとおり、「全国の企業の」、「短期的な経済観測についての」、「アンケート調査」ということでございます。

アンケートの調査項目としましては、大きく以下の2つからなっています。一つの塊は、企業の皆さんの、「業況」や「雇用人員の過不足」等についての「現状判断」と「3か月後の予測」を指数化したもの。もう一つの塊は、企業の皆さんの「売上高」や「経常利益」、「設備投資」等の「金額（年度の計画額）」です。この中で、世の中的に良く取り上げられ、発表当日の市場関係者の取引材料にもされますのが、①のうちの「業況」についての判断を指数化したもの、すなわち、「業況判断DI」であります。

「DI」の算出

まず、各判断項目について3個の選択肢を用意し、選択肢毎の回答社数を単純集計します。次に、全回答社数に対する「当該選択肢の回答社数の割合」を算出します。その上で、第1選択肢の回答社数の割合から第3選択肢の回答社数の割合を差し引いて、DIを作成します。

具体例に沿ってみてみますと、例えば、企業の業況についての質問では、ⓐ良い、ⓑさほど良くない、ⓒ悪い、の3つの選択肢を用意します。調査対象企業数が200社で、回答がⓐ50社、ⓑ120社、ⓒ30社というケースですと、業況判断DIは、ⓐの回答割合25%から、ⓒの回答割合15%を差し引いて、10%ポイント、これがDIとなり、プラスの10、あるいは、「良い」という回答が「悪い」という回答を上回っている、超えているという意味で、「良い」超の10とも呼びます。

DIというと何か難しい計算をしている印象を与えるかもしれませんが、算出の仕方はこのように至って単純なものです。しかしながら、この単純な数字が、後でご覧頂くように、意外にも景気の循環・良し悪しを言い当てているというのも事実です。そうだからこそ、短観の結果は市場関係者やマスコミに注目されるということでもあります。

平成26年3月短観の調査結果

最初は、今ご説明した業況判断DIの今年3月の調査結果です。上段の箱に福島県の数字、下段の箱に全国の数字を掲載しています。濃いシャドーを付けた14年3月の列をみて頂きますと、福島県の全産業の業況判断DIは、3月は11、プラスの11となっています。つまり、業況が「良い」と答えた企業の割合の方が、「悪い」と答えた企業の割合よりも11%ポイント多いという結果です。

その右側のマイナス4という数字は、前回の調査、昨年12月の調査と比べてどうかというもので、3か月前より4%ポイントほど、業況の良さが縮小したという意味です。

逆に、11の左側のかっこ内の数字、12というのは、昨年12月の調査時点で、「3か月後の今年3月の業況はどうなっていると思いますか」という予測を聞いたものです。昨年12月の時点では、3月の業況判断DIはプラス12くらいだろうとみられていたということであり、実際に3月になった時に改めてどうかを聞いてみると、プラス11という、ほぼ3か月前に予測したとおりの業況感になった、という意味です。

次に、同じ今年3月の日本全国の企業の業況判断DIはどうだったかをみてみますと、下段にありますように、全産業でプラスの12ということであります。福島のプラス11とそう大きくは違わないということですが、業種別にみると、中身は相当違っていることが分かります。

▽業況判断D. I.

（「良い」－「悪い」社数構成比<%ポイント>、( )内は前回調査時予測）

		13/9月	12月	14/3月		12→3月変化幅	6月予測	3→6月変化幅
福島県	全産業	9	15	(12)	11	−4	8	−3
	製造業	▲ 11	▲ 8	(▲ 4)	▲ 11	−3	▲ 5	+6
	非製造業	23	31	(24)	25	−6	17	−8
	建設	68	71	(54)	61	−10	50	−11
	卸売	▲ 8	0	(13)	18	+18	9	−9
	小売	32	32	(32)	25	−7	0	−25
全国	全産業	2	8	(6)	12	+4	1	−11
	製造業	▲ 2	6	(4)	10	+4	1	−9
	非製造業	5	9	(7)	14	+5	1	−13

5

全産業の下の行にある製造業と非製造業の別でみて頂くと、全国の場合、製造業はプラスの10、非製造業はプラスの14ということで、どちらの業種も「良い」と答えた企業の方が10%ポイントほど多いという結果です。他方、福島県の場合は、非製造業はプラスの25ということで非常に良い訳ですが、逆に製造業はマイナスの11となっており、業況が「悪い」と答えた企業の方が多くなっています。福島県の景気は、建設業を中心とした非製造業に引っ張られているということが言えます。

短観でDIを計算している項目は、業況だけではなく、雇用人員の不足感や販売価格の動向などもあります。以下では、業況判断以外の項目を簡単にみていきたいと思います。

最初に雇用人員判断DIです。これは、人員が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いたものです。福島県の場合、非製造業がマイナスの38ですから、非常に強い人員不足感を抱いており、製造業はプラスマイナスゼロですから、そうでもない、人手の面ではちょうど良い状態、ということが分かります。それだけ非製造業の現場では人手が足りず、需要や受注に適切に対応するのが難しくなっている面があるということです。

先般、報道等で、有効求人倍率を募集地域別に集計し直してみると、福島県が全国一高いという結果が出ていました。県発注公共工事の入札不調率も高い水準から抜け出せない状況です。デフレの時代には長らく需要不足が問題と言われていましたが、今は人員も含めた供給力が足りないという事態に直面している訳です。今のところは、これが、経済全体というよりは、建設や介護等、ある分野において極端な形で生じているということだと思いますが、今後の復興の進捗、福島県経済の成長を考えた場合、この問題が経済全体に悪影響を及ぼすようなことがないか、私としても心配しているところです。

続きまして、価格関係のDIです。これは「上昇している」と答えた企業の割合から「下落している」と答えた企業の割合を差し引いた値です。

まず、仕入価格。これは製造業、非製造業を問わず、円安や人員不足の影響もあって、「上昇している」という答が非常に多くなっていることを示しています。次に販売価格。こちらは先程ご覧頂いた仕入価格とは違った結果になっています。結構忙しい非製造業でもプラスの10程度ですし、製造業ではむしろ売値は「下がっている」という答の方が多くなっています。コスト高を販売価格になかなか転嫁できない姿がみてとれます。

続いて、生産・営業用設備判断DIです。これは人員と同じように自社の生産設備や営業用設備が、需要や受注に比べて「過剰」か「不足」か、を聞いたものです。プラスに出ていれば「過剰」と答えた企業の方が多いことになります。これも先程の業況判断と同様、製造業と非製造業とで対照的な数字になっています。製造業は業況も今一つでしたので、設備もフル稼働という訳ではないということです。特に、福島県の製造業の過剰度合いは、まだまだ大きいようにみえますので、これから設備投資をやっていこうという雰囲気にはなかなかなり難いということかも知れません。

残りのDIは企業金融に関するものです。まずは、資金繰りが「楽」か「苦しい」か、を聞いたものです。福島県はプラスの14。資金繰りが「楽である」と答えた企業の方が多い状態です。14という水準からみても、資金繰りの面では多くの企業が比較的順便な状況にあると思われます。これには、次の金融機関の貸出態度も影響していると思われます。金融機関の貸出態度について、「緩い」か「厳しい」か、を聞いてみますと、福島県の場合は、プラスの22。つまり、銀行や信用金庫など、金融機関の貸出姿勢はかなり「緩い」状態にあるということです。さらに、次にご覧頂くように、借入金利水準が下がり続けていることも、資金繰りが「楽である」という状態に影響を与えているものと思われます。今年3月の借入金利水準判断DIはマイナスの10。このところマイナスが続いていることが確認できます。

最初の方で申し上げましたとおり、短観では、DIだけでなく、企業の皆さんの「売上高」や「利益」、「設備投資」等の「金額（年度の計画額）」もお聞きしています。その集計結果は、次のとおりです。3月短観では、昨年度、2013年度の見込みに加えて、今年度、2014年度の計画もお伺いしています。

まず、売上高ですが、今年度も前年に比べて2%ほど増える計画となっています。この4月以降は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減が懸念される状況ですが、福島県の企業の皆さんは、そうした中でも売り上げはコンスタントに伸びると見込んでおられるということです。この数字は全国のプラス0.7と比べても強めです。

次に、利益の数字です。こちらも、福島県は、前年対比プラス13.5%となっており、増益の計画です。全国企業がマイナスと減益計画になっていることとは対照的です。消費税率引き上げの影響が懸念される中にあっても、当地の企業の先行き見通しは、比較的しっかりしているなという印象を持ちました。

最後に、設備投資の計画です。こちらは昨年度、2013年度の計画をご覧下さい。先程DIのところで、生産・営業用設備判断DIをご覧頂いた時に申し上げましたとおり、製造業の設備過剰感はまだまだ強い状態にありましたので、製造業の企業が設備投資を積極化するのはなかなか見通し難い、短観の計画上も製造業はマイナスでやはり慎重な姿がみて取れます。逆に、非製造業は前年比プラス13%と、比較的積極的な設備投資を行っているということです。

短観から読み取れること

一つは、業況判断から読み取れる、消費税率引き上げの影響です。短観では、現状評価と同時に3か月後の予測も聴取していますので、3月短観では3月時点の業況と6月の業況予測の数字が集計できます。そこで、業況判断DIについて、3月時点の数字と6月予測の数字の差を取ってみれば、消費税率引き上げの影響を経営者の皆さんがどのようにみておられるかが、多少は感じ取れます。

先述の業況判断DIの表で、先行きにかけての予測値と現状判断との差を、全国と福島県で比較すると、全産業でみて、全国はプラス12からプラス1まで、11ポイントも業況の良さが縮小するのに対し、福島県の場合は3ポイント程度に止まっています。

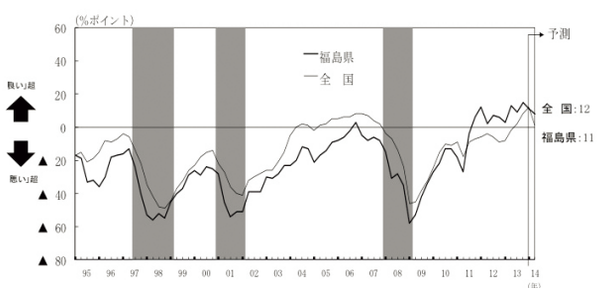
実は、福島のこの数字は、消費税率引き上げとは関係なく、毎回の調査でみられる程度の傾向です。事実、昨年12月の短観でも、現状評価は15で先行き予測は12、マイナス3ポイントでした。他方で、全国の昨年12月の数字をみますと、現状評価が8で先行き予測が6ですので、今年3月の短観での先行き予測の落ち込み（11ポイント）は、通常に比べて相当大きいと言うことができます。逆に言いますと、当地経営者の先行きに対する見方は比較的底堅い、しっかりしているということかも知れません。背景には、震災からの復旧・復興関連の投資や事業が高水準で継続することなど、当地の景気を支える要素が他地域に比べて強めであることなどがあるのだろうと思われます。

実際、消費税率引き上げ後、ひと月強を経た現状において、駆け込み需要の反動についての評価を聞きますと、想定の範囲内とか、思ったほどでもないとか、中には前回引き上げ時よりも影響は小さいとか、そういった声の方が今のところは、どちらかと言うと多いように思います。もちろん企業によって違いはあるでしょうし、反動減がどの程度続くかという問題もありますので、その影響を評価するにはもう少し時間をかけたいと思っています。

次に、業況判断DIを長い時系列でみたときに読み取れる県内経済の特徴です。太い線が福島県のDIの推移、細い線が全国の推移です。シャドーを付けたところが景気後退局面と言

➢業況判断D. I. の推移

▽全産業

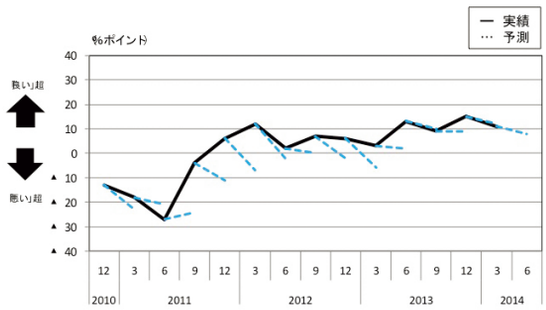


われる時期です。これは暫く時間が経過してから内閣府経済社会研究所長が決める日付のようなものですので、同時点、リアルタイムでは、今景気が拡大局面なのか、後退局面なのか、その時点では正式にはなかなか分からないものです。しかし、ご覧頂けますように、DIは、景気後退局面ではそれに応じて下がっていることがみて取れます。逆に、白い部分、景気拡大局面ではDIも概ね上昇していることが分かります。その意味で、業況判断DIは景気の良し悪しを知る上で、速報性の高い指標と言えます。

さて、その上で、この二つの折れ線を比べて頂くと、過去の局面では、大体全国の業況感の方が福島県の業況を上回って推移していたのですが、震災後は、その関係が逆転していることが分かります。これは、製造業、非製造業別にみて頂くと、より顕著に特徴が現れます。

特に、非製造業の逆転度合いが際立っています。過去は全国対比大幅に低い水準でしたが、震災後は全国を大幅に上回っています。他方、製造業は、逆に、ここへきて全国を下回る度合いが大きくなっています。震災からの復旧・復興に向けた様々な投資や事業の影響が、ここまで顕著に福島県の経済を変化させたことが分かります。製造業に関しては、現在好調な自動車関連の製造業のウエイトが当地は相対的に低いために、全国対比での出遅れ感が強く出てしまっているものと思われます。

▽業況判断D. I. の実績と予測の推移（全産業）



以上、短観からは、「足許の福島県経済は、建設を中心とした非製造業の活況を主因に、過去にはない姿で持ち直しているけれども、今後バランスのとれた形で景気全体がしっかり良くなっていくためには、製造業の業況が改善していく必要がある」ということがみて取れます。そのためには、県外や海外の需要を上手く取り込んでいけるかどうかが重要になってくると思っています。

次の６月短観の結果は７月１日に公表となる予定ですが、３月時点の予測のように、それほど大きな落ち込みとはならないことを期待しつつ、これをもちまして短観に関するご説明を終わります。ご清聴有り難うございました。

広報マルチメディア･雑誌小委員会報告

佐藤　武彦 委員

＊「友」5月号の紹介

次年度プログラム･ニコニコBOX小委員会報告

古俣　　猛 委員

＊6月プログラムのご案内

私のひとこと

今井吉之 会員

私の名前は「吉之」と書いて「よしくに」と呼びます。名付け親は金子与左様（福島RC第３代目会長、金子興志雄会員の御祖父）です。私が弁護士になったときに金子様（当時、福島日産自動車（株）の社長）に挨拶に参上した際、「私の名前の「之」を「くに」とは、中々、皆に呼んでもらえない」と申し上げたところ、金子様は「当時、海軍少将の人が名前の「之」を「くに」と呼んでいたので、「くに」と呼ぶ方が珍しいかと思って名付けた」とのお話でした。私の父の名が「吉之助」であったので、「助」をとって「吉之」としたが、「よしゆき」では平凡なので読み方を考えたとのことでした。広辞苑によれば、「之」の読みは、「これ」「の」「ゆく」「ゆき」です。

ニコニコBOX報告

本日のニコニコBOX投入額　30件　¥59,000　累計 ¥2,127,000

茂田士郎 委員

▶紺野　晴郎 会長
中島支店長様のスピーチを楽しみにしています。商売の羅針盤として日銀短観は欠かせないものです。中島流の解説を期待しております。

▶日比野恒夫 幹事
中島支店長の短観について楽しみにしてます。

▶丹治　正博 会員
昨日、福岡の太宰府天満宮から宮司さん以下職員の皆さん40名に参拝頂きました。このあと２班80名の職員旅行が予定されており、福島で大いに食べて飲んで観光してお土産を買って頂く、こうしたご支援は有り難いかぎりです。

▶幡　　研一 会員
ゴールデンウィークは、またたく間に過ぎました。１ヵ月位のんびりしたいものです。

▶渡邉　広重 会員
異次元金融緩和、アベノミクスがどんな影響を及ぼしているか、新聞やメディアではわからない微妙なところが聞けるのではと、中島支店長のお話に期待しています。

他に

有田　吉弘／安藤健次郎／今井理基夫／岩田　尚志／氏川　守義／内池　浩／江花　亮／児玉　健夫／古俣　猛
佐藤　英典／茂田　士郎／白岩　康夫／志村　光昭／菅沼　裕／田苗　博／高橋　聡／田沼紀美子／坪井　大雄
中島　健至／藤井　高志／日比野恒夫／増子　勉／松浦　敬裕／牧野　吉晃／八子　英器

今週号の編集長　右近　八郎 会員